

The Philosophy of Nagahama Ceremony

人生最後の「ありがとう」のために。

地域に愛される会社でありたい。

これは今も昔も変わらない、長浜セレモニーの根幹となる想いです。

私たちが目指すのは、

お葬式を執り行なう“業者”としてのお付き合いではありません。

お葬式だけでなく、地域の催しでも皆様から必要とされるように。

長浜セレモニーに関わるすべての方から

「おかげさまで……ありがとう」と言ってもらえるように。

ご家族・地域の皆様の「気持ち」に寄り添う、

ライフパートナーでありたいと思っています。

100人いれば100通りの人生があるからこそ、

どれもが「世界に一つだけのご葬儀」に。

お集まりいただいたすべての方が、

故人様の思い出を分かち合い、生きた証を心に刻めるよう、

一人ひとりの想いを形にしたお葬式を実現いたします。

手間暇を惜しまず、人生最後の「ありがとう」をお手伝いを。

地域でのご縁を大切に、

社員一同「こころ」を込めてご奉仕させていただきます。

心のこもったあたたかいお葬式を届ける



長浜セレモニー株式会社
営業部 課長

対価がなくても、この道を選ぶ

長浜セレモニー 家族葬の♡ウィズユー宮前



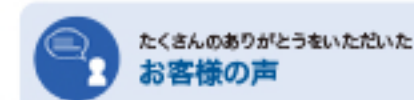
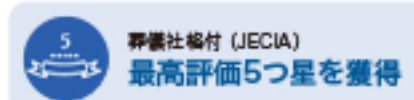
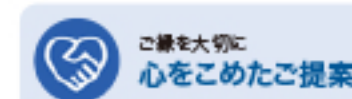
心のこもったあたたかいお葬式を届ける

私たちは常にお客様に満足いただける企業として感謝の「こころ」でご奉仕します

私たちは常に「こころ」から愛される企業として地域社会に貢献します

私たちは常に尊敬と愛情と信頼で結ばれ「こころ」をひとつにして協力の精神で社運の発展に努めます

お客様に安心と満足をご提供し、地域に愛される会社でありたい



■式場一覧

家族葬の♡ウィズユー高月



滋賀県長浜市高月町
柏原396-1
パワーズせん斜め向かい

長浜市

長浜式場



滋賀県長浜市加納町
341-5
長浜I.C.より車で3分

家族葬の♡ウィズユー宮前



滋賀県長浜市宮前町6-4
旧国道8号線沿い

米原市

家族葬の♡ウィズユー近江



滋賀県米原市願戸632-4
願戸南交差点角

葬儀のことなら何でもお気軽にお問い合わせください

0120-09-8395 通話無料 365日24時間受付

会社名 長浜セレモニー株式会社
本社所在地 〒526-0804 滋賀県長浜市加納町341番地5
TEL 0749-64-3415 FAX 0749-64-3416
代表者 代表取締役 松村隆雄
設立 2001年7月

ホームページはこちらから
<https://nagahama-ceremony.com/>



対価がなくても、この道を選ぶ

お金をいただかなくても、葬儀の仕事をしたい。それが私の率直な想いです。

「京都に住みたい」という理由で、地元の長浜から京都の大学へ進学した私は、先の見えない未来を前に、アルバイトを転々とする日々を過ごしていました。

そんな中で出会った、葬儀の仕事。

思い返してみれば、自身が仏教学科を専攻していたり祖父方がお寺だったりと、葬儀の仕事に興味を持ち得るきっかけはいくつもあったはず。でも最初のきっかけは、企業説明会でした。数ある会社の中でも長浜セレモニーが輝いて見えて、「ここしか座るところがない」とピンときたんです。その後、新卒枠で2017年に入社。現在は課長として新人教育を務めながら、お客様との打ち合わせや施行にも携わっています。

今の私があるのは、教育担当だった先輩の言葉のおかげです。先輩は、定年後にお母様が亡くなったとき「高木くんがいるから、長浜セレモニーに式をお願いするよ」「これからも、誰かの心の支えになってあげてね」と伝えてくださったんです。

実はそれまで、「自分は営業に不向きだ」と感じていて……。就職活動中に「営業職を全部外してください」と伝えていたほど、昔から人見知りだったんです。

先輩に顔向けできるよう、受け継いだ想いを次へ繋ぐつもりで日々を重ねて、今。苦手を克服できる良い機会をいただいたと、感謝の気持ちでいっぱいです。

そんな私が働くうえで大事にしているのは、お客様と心で繋がること。利益ではなくお客様第一で考え、誠心誠意、正直に向き合わなければなりません。

でも、誠心誠意向き合い続けるって、想像より遥かに難しいと思います。たとえば「こういうお客様は、こうしたら喜んでくださる」と思った途端、それは「心底してあげたいこと」ではなく「作業」となってしまうから。

葬儀は、たくさんの方の力が合わさってはじめて完成する場です。つまり私は私のやるべきことをやり、お客様への責任を果たす必要があるということ。

今の長浜セレモニーがあるのも、先輩方がそうやって信頼を積み重ねてきた結果なのでしょう。時代とともに、効率の良さを求められる場面も増えてきました。それでも私は、場数を踏んで作られた引き出しを開けるのではなく、「してあげたい」をいつでも選びたい。常に初心を忘れないでいたい。

いつまでも、先輩の想いを受け継いで。

そんな姿勢で向き合い続けることこそが、お客様や仲間と助け合い、成長していくことに繋がると信じています。

そしてこれからは、私が次の世代にバトンタッチする番。「教える」ではなく「伝える」つもりで、お客様のためならどんなことでもする覚悟で、これからもこの仕事に向き合って参ります。



The Philosophy of Nagahama Ceremony

人生最後の「ありがとう」のために。